

建材・住設ニュース

シャッター

「門番Gシリーズ」新発売

新高速シートシャッター 小松電機産業

高速シートシャッター納入実績業界最多の小松電機産業（小松昭夫社長、本社・松江市乃木福富町）は、6月1日より新型「門番」Gシリーズを発売した。シート上昇速度が秒速3mを実現した。従来品比で気密性が18倍になり、ともに業界トップ。同社はこれにあわせ韓国ソウルに拠点を開設した。アジアを中心に販売網の拡大を急ぐ。同社は中間パイプ付の現行製品KVシリーズに、パイプレスのGシリーズを「門番」ラインナップに加えることで、工場、倉庫のあらゆるシーンにおいて最適なラインナップが完成したとしている。気密性は独自のエアタイト構造を採用することにより時間当たり通気量、正圧5.34立方m、負圧が5.11立方m（ともに気圧差10Paあたり）。衝突時にシートが自動でレールに復帰する機構を備えており、フレームに注油機構を備えるなど新技術



の採用により、フレーム破損、ファスナーのコマ割れなど、これまでの自動復帰の課題を抜本的に改善した。シート下降時に障害物などにより異常を感知した場合、中速で反転上昇。シート下端にクッションを内蔵しており、衝突時の安全性を飛躍的に向上させた。同社試算によると、空調効果をスチールシャッターと比較した場合の年間電力料金削減・省エネ効果は、4m四方の間口で約145万円に上る。高气密性と安全性を備え、小型化に適し、施工が従来品より簡易になっていることから、特に防塵、高速が求められるクリーンルームの新設、取替え需要に最適という。規格はGF05～20まで4タイプ。高さは1～4.5m、幅は0.8～4.5mまで。価格は間口3m四方で80万円（工事費別）。「門番Gシリーズ」は6月初旬に開催された国際食品工業展に出展した。初年度販売目標1,000台。

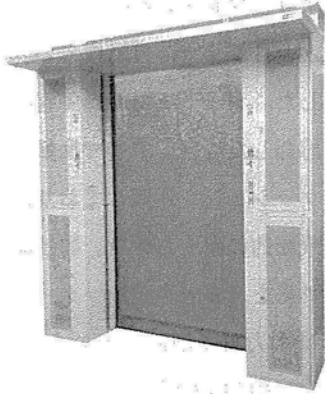
エアカーテン

シートシャッター内蔵防虫用のエアカーテン

日本エアーテック・小松電機

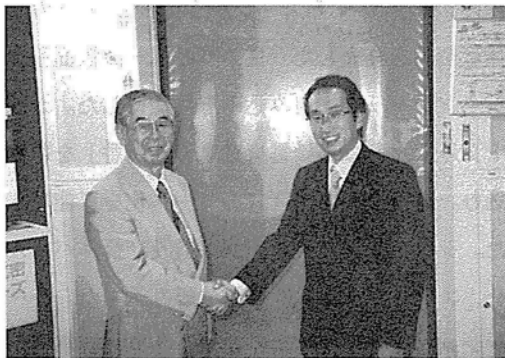
日本エアーテックと小松電機産業は、防虫用エアカーテンにシートシャッターを組み込んだ、エアカーテンとシートシャッターの一体型製品を発売した。従来型と同一設置面積でシートシャッター組み込みを可能にした。シートシャッターは小松電機産業の「門番」を組み込む。両社の共同研究により一体化を可能にした。シートシャッターの制御盤及び操作パネルを、エアカーテン制御盤に組み込んだ。シートシャッターと一体型としたことで、工事費が

建材・住設ニュース



シートシャッター内蔵防虫用エアーカーテン

節約できる。パイプレス構造により、業界最速の上昇スピード3m/secが可能にした。開放時間の短縮、防虫効果を高めた。万一シートに接触すると、シートがガイドから外れて破損を防止する。外れたシートは上昇することで自動復帰する構造にした。下から上まで、地面から入ってくる虫の侵入を防ぐ。設置状況と幅によって風力の角度が変えられる。今後は、両社の顧客に対してアプローチして、相乗効果での拡販を想定している。同一体型の初年度販売目標は200台。すでに、大手食品メーカーや電子部品メーカーからの引き合いがある。同一体型は、6月初旬に開催された国際食品工業展に出展した。写真は平澤真也日本エアーテック社長（右）と小松昭夫小松電機産業社長（左）。



エクステリア

バルコニー「エックスステージ」発売 雨水一点集中システム搭載 トステム

トステムは、業界初の新構造“雨水一点集中システム（特許出願中）”を搭載し、人気のモダン住宅からどの住宅スタイルにも調和する、シンプルでスタイリッシュなバルコニー「エックスステージ」を6月から全国で販売を始めた。従来のバルコニーは、左右2箇所にも雨樋を設置するか、雨樋を片側1箇所にする場合は、横樋という部材を別途バルコニーの底面に取り付ける排水構造が一般的。「エックスステージ」では、シンプルでスタイリッシュなバルコニーを追求し、横樋を取り付けなくても雨樋が片側1箇所でも済む業界初の“雨水一点集中システム”を開発した。従来の出幅方向だけでなく、間口方向にも小さな勾配をつけ、さらに前桁内部に横樋と同じ機能を持たせたことで、横樋を使用しないシンプルなデザインを実現した。また笠木のサイズをスリムにしたほか、コーナー部分の継ぎ目が目立たないようにした。そのほかにもバルコニーを下から見上げたときに、取り付け金具が目立たないようにするなど、細部



バルコニー「エックスステージ」の施工例